

令和二年度初任行政研修の実施概要

公務員研修所では、令和三年五月一七日から七月七日まで及び八月三〇日から一〇月二九日までの間、初任行政研修を実施しました。
本稿では、今年度の初任行政研修の概要について御紹介します。

研修のねらい

初任行政研修は、本府省において主に政策の企画立案に従事することが想定される、総合職試験等による新規採用職員を対象としたもので、国家公務員としての基本的な心構え、基礎的素養を身につけさせること等をねらいとしています。二五回目を迎えた今年度は、七二二人（うち女性二七〇人）を対象に実施しました。

コロナ禍における実施方法等

新型コロナウイルス感染症流行前の昨年までは、五月から七月にかけて、五コース、各五週間（公務員研修所での合宿二週間、介護等実地体験、都内研修施設での通勤研修、地方自治体等における実地体験各一週間）で実施していました。

しかし、昨年続くコロナ禍により、今

年は、一コース当たりの人数を研修所講義室等でソーシャルディスタンスを保てる人数（約九〇人）とし、コース数は八コースとしました。また、第一週目として五月から七月までの間に三日間、第二週目として八月から一〇月までの間に五日間と、時期を分けて日程を設定しましたが、結果として全日程がオンラインでの実施となりました。Web会議システムを用いたライブ配信を行い、研修員は各自の勤務先や自宅から受講しました。

研修内容

研修内容は、これまでの初任行政研修で実施してきた内容から、オンライン実施に適した科目を選ぶとともに、Web会議システムのブレイクアウトセッション機能を活用したグループ討議の機会を多く設けて、研修員が様々なメンバー構成で議論で

（第1週）

月	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
月	全体ミーティング	開講式、オリエンテーション、自己紹介(1)	チームビルディング	昼食	若手公務員の歩み	全体自己紹介(2)	全体ミーティング	交流	全体自己紹介(2)	全体ミーティング
火	全体ミーティング	特別自己紹介	特別講義	昼食	市民との協働について考える	全体自己紹介(3)	全体ミーティング	交流	全体自己紹介(3)	全体ミーティング
水	全体ミーティング	特別自己紹介	公務員倫理を考える(グループ1)	昼食	全体自己紹介(4)	振り返り・発表	意見調査票提出	全体ミーティング	交流	全体ミーティング
木	全体ミーティング	特別自己紹介	公務員倫理を考える(グループ2)	昼食	振り返り・発表	意見調査票提出	全体ミーティング	交流	全体ミーティング	振り返り

上表：第1週カリキュラム例
左表：第2週カリキュラム例

（第2週）

月	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
月	オリエンテーション	アイスブレイク、役割分担	昼食	資料配布・ビデオ視聴	行政政策事例研究(基調講義)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)
火	全体ミーティング	人権	昼食	全体ミーティング	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)
水	全体ミーティング	特別講義	昼食	全体ミーティング	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)	行政政策事例研究(班別討議)
木	全体ミーティング	行政政策事例研究(班別討議)	昼食	行政政策事例研究(全体討議)	行政政策事例研究(全体討議)	行政政策事例研究(全体討議)	行政政策事例研究(全体討議)	行政政策事例研究(全体討議)	行政政策事例研究(全体討議)	振り返り
金	全体ミーティング	国際行政の現場又は諸外国から見た日本	昼食	開講式	小論文作成 意見調査票記入	小論文作成 意見調査票記入	小論文作成 意見調査票記入	小論文作成 意見調査票記入	小論文作成 意見調査票記入	小論文作成 意見調査票記入



上段：開講挨拶をする池本所長
下段：ブレイクアウトセッション画面
○部分の班をクリックして入室する

きるように心がけました。また、一コマ当たりの時間の短縮などの工夫を行いました。授業外の時間もオンライン上のミーティングルームやグループセッションを可能な限り開放しておき、研修員同士の自主的な交流が行いやすくなるよう配慮しました。

○チームビルディング

研修期間が短縮された分、早めに研修員同士の心の距離を縮めることを目的として、これまでの自分の歴史を話し、他の班員は話し手との共通点をコメントする「自分史語りゲーム」と、初対面の研



修員同士が気軽に会話を始められるよう話題を提供する「投票予想ゲーム」を実施しました。ゲーム形式で行うことで研修員同士が早期に打ち解けた雰囲気になることができました。

【研修員の声】

- ・正直最初が必要なのか疑問を持っていましたが、いざやってみるとこういう緩いテーマの方が話しやすく、研修の最初のプログラムとして良かったと思う。
- ・対面の方がやりやすいと思ったが、オンラインでも十分対応出来た。

○若手公務員の歩み

各府省の課長補佐等から、各府省が取り組んだ行政課題等を題材とする講義、質疑を通じて、実際の政策形成に当たって必要となる視点と手続き、関係者との調整方法等について学ぶほか、ざっくばらんなやり取りを通じて、公務員として働くことについての意識を高めました。

【研修員の声】

- ・仕事において心がける点等を助言いただき、職場ですぐに活かせると感じた。今後のキャリアパスを考えるきっかけとなった。

○市民との協働について考える

コロナ禍において、現場での実地体験が困難となる中でも、国民の目線に立った行政の必要性を感じてもらうため、こどもの貧困など社会問題に取り組んでいるNPO等の方々から、その社会問題の背景、現状、今後の課題等について学びました。

【研修員の声】

- ・NPOや社会起業家の方々のお話を聞いて、公務員、行政の立場だからこそできる仕事は何かを改めて考える機会になった。
- ・現場を見ることの大切さ、官民連携の



左：研修員の接続トラブル等に対応する研修事務室 右：画面に向かって講義をする講師

姿勢の作り方など大変勉強になった。自治体との関わり方など、今後も考えたい必要があると感じた。

○公務員倫理を考える

公務員倫理に関する法制的な規制内容の勉強ではなく、倫理学の知見を踏まえた班別討議方式による事例研究などを通じ、公務員としての倫理的な行動の在り方について検討し、実践への動機付けを図りました。

【研修員の声】

- ・公務員倫理というと消極的なもの、縛られるものというイメージがあったが、本講義での切り口は興味深かった。
- ・まだ自身の倫理観、正義感で判断できる資質は持っていないため、今後の職務を通して育み、将来必要な時に自信と責任を持って判断できる行政官になりたいと思った。

○行政政策事例研究

歴史的意義の大きい「水俣病」、「東日本大震災」、「成田空港建設」、「固定価格買取制度」、「消費税導入」、「長良川河口堰建設」、「福島から考える」及び「日米外交史」の各事例を題材とする講義を聴き、グループ討議を行いました。これら

を通して、行政官として取るべき行動について多角的視点から考えました。

【研修員の声】

- ・当時対応に当たった方の生の話を聞いて非常に有益だった。扱う事例に関わらず、同じ行政官の経験を踏まえた講義であることは受講者にとって得るものが大きい。

- ・オンラインでも可能だが、対面の方が、円滑に議論できたり、調べ物をしている時もすぐに相談できたりしやすいと思う。

○人権

人権問題に直面した方や課題解決のために活動している方から体験に基づいた講義を聴き、我が国が抱える人権問題の現状を認識するとともに、人権に対する意識を高めました。

【研修員の声】

- ・「自分の大変さを知ってもらうにはまず相手の大変さを理解することが大切」という講師の言葉が印象に残っている。

- ・当事者かつ支援者である先生からの講義を受け、行政は地域とどのように連携をとっていくべきなのか、思いを巡らせた。

○特別講義

コースごとに、「イスラム教徒との共生」、「介護の現場から」、「富士山噴火・首都直下型地震・南海トラフ巨大地震に備える」等の時宜を得た多様なテーマについて講義を受け、視野を広げました。

【研修員の声】

・価値観が形成された歴史や背景を知らなければ、実際に起こっている事象を表面上で理解した気になってしまい、場合によっては紛争の原因となると感じた。

・災害防止という観点から国家公務員と国民の関係性が示され、国家公務員の仕事と公共性について考える機会を得られた。

○国際行政の現場・諸外国から見た日本

自衛官、JICA職員、諸外国の外交官等の方々から体験に基づいた講義を聞いた後、グループに分かれて座談会形式で意見交換を行いました。我が国の置かれている立場、国際協力の在り方等について認識を深め、今後、国際社会において我が国に求められる役割を深く考えました。

【研修員の声】

・国防、海外支援事業という観点から、

日本の立ち位置を考えることができた。
・現役外交官の方と議論する機会がいた
だけで大変有意義だった。

研修を終えて

アンケートの結果では、この研修について「大変有意義」又は「おおむね有意義」とする割合が九〇%以上となりました。一方で、全日程オンラインのみでの開催となったことにより、「信頼関係の醸成のため、他省同期と対面でぜひ会いたかった。」という声が多数寄せられたところであり、本研修の目的の達成の観点から、オンラインによる限界も感じる結果となりました。なお、オンラインでの実施に関しては、一時接続できなくなった等のトラブルはあったものの、特に問題はなかったとする者が大半でした。

ウイズコロナ、アフターコロナ時代においても「初任行政研修を受けて良かった。」と感じられる研修を提供し、初任行政研修の目的である倫理観、使命感の醸成、行政ニーズへの多様化、国際化等への対応、セクシヨナリズムの弊害の排除を基本的な視点として、国民全体の奉仕者としての自覚、国民全体の視点から施策を行うための基礎的素養・見識を養うとともに、研修員

相互の理解と信頼を深めることができるよう、引き続き努めていきます。

最後になりましたが、御指導いただいた講師の皆様と、実施方法等の変更に御対応いただいた各府省の研修担当者及び研修員の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

【研修員の声】

・講師の方の現場での貴重な経験を踏まえたお話を伺うことで、現場を意識した政策課題の検討が重要であることを認識できた。

・他省庁の方から自分とは異なる視点・考え方を吸収することができた。

・研修を通じ、改めて国民のための奉仕者として自身の立場から何が出来るのか考えるべきであると強く感じた。

・他省の同期と正解の存在しないであろう課題を真剣に討議し、自分たちの考え方を共有した上で班としての結論をまとめあげる作業は、将来的に、省庁の垣根を越えて共通の課題に向けて取り組む際の有効な経験になると思った。